

ビズ・チャレンジ相談

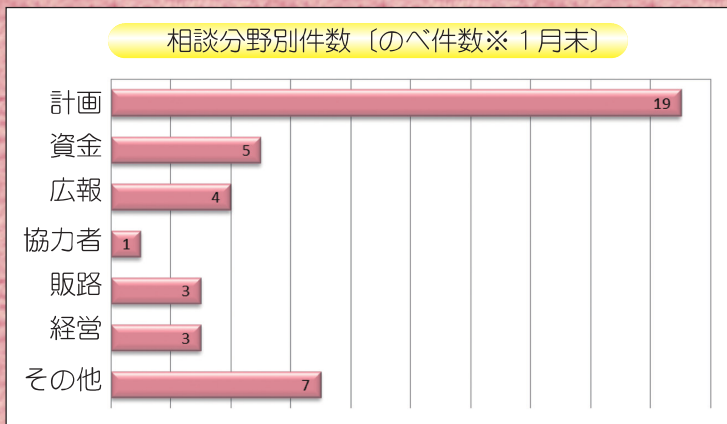
相談対応：公益財団法人滋賀県産業支援プラザ（滋賀県よろず支援拠点）

「起業したい!」「地域活動・NPO活動などを発展させて収益事業展開したい!」「ビジネスをもっと広げたい!」などとチャレンジする女性をサポートする事業。1月末までに、のべ33人の利用がありました。その様子をお伝えします。

西山「こんにちは。今日は、平田さんの作品持参ですね」
平田「はい。この夏、マルシェに出店した時に、ナチュラル感がいいとお客さんに言っていただいたので年中着用できるものを作ってみました。」
西山「いいじゃないですか。プレスの際にどんなコーディネートをするかで商品の印象もかわりますからね。」
平田「そうですね。今日はセーターとの重ね着スタイルの提案です。西山さんには、5月から私の相談を聞いていただいています。毎回自分の気持ちが整理できて充実します。今日もよろしくお祈りします。」



相談対応：西山彰子さん



西山「平田さんは、洋服の製造と販売ということがはっきりしていて方向性がぶれないからいいですよ。」
平田「でも、なかなか想いが言葉にならなくて、西山さんは迷惑されているのではないかと気になります。」
西山「チャレンジしたいという想いが強いほど、想いが先走る、そういうものです。その想いを具体化するお手伝いをするのが私の役目、この相談の意義ですから、心配無用ですよ。ところで販売委託先の検討はどうですか。」
平田「洋服を中心に快く置いて下さる方がいらっやいます。G-NETのセミナーに参加しなければ知り合えなかった方々に協力いただいています。」

西山「よかったですね。積極的につながりに行くことは必須ですね。名刺も『ひなたぼっこ』の屋号がうまく入ってブラッシュアップできたことだし、自信を持って広報することが大事ですね。」
平田「がんばります。SNSによる広報がまだやりきれてなくて…。次の課題でしょうか。」
西山「あまり一つのことにこだわりすぎて、本来の良質な製品の提供という目的を忘れてはいけませんよ。」



相談者：平田真弓さん(東近江市在住)



平田「そうですね。私には近江上布伝統産業会館に勤めていたご縁もありますし、その麻生地を使うことをひとつの手段として、洋服作りに長く携わりたいと思っています。」
西山「お客さんが、『ひなたぼっこ』の平田さんにお願ひすれば、永く愛用できるオリジナル製品を作ってもらえるという安心感を持つために、どんなことができるかをもう少し具体的に事業計画書に入れるといいですね。」

平田「私の曾祖父は麻織物、そして祖父はちぢみ生地を扱っていた近江商人だったと母から聞きました。運命的なものを感じています。焦らず、でも私の想いは曲げずにチャレンジしたいと思っています。」

西山「応援しますよ。」

平田「一人でできることは限られています。応援してくださったり、アドバイスをくださる方がいらっやすることで力が湧いてきました。」



専門の相談員があなたの課題に対し、丁寧にアドバイスや情報提供を行います。相談は予約制です。当センターへの連絡をお待ちしています。